

水稻品種（うるち米）「里山のつづ」の紹介

福島県農業振興課
平成28年11月

1 特長

- 出穂期と成熟期はともに「あきたこまち」より2日程度遅い。
- 稈長は「あきたこまち」並だが、耐倒伏性は「あきたこまち」より強い。
- 玄米の粒が大きく、「あきたこまち」より多収。
- いもち病抵抗性・耐冷性は「あきたこまち」より優る。
- 玄米外観品質は「あきたこまち」に優り、食味総合評価は「あきたこまち」並みの良食味。

表 「里山のつづ」の特徴

品種系統名	里山のつづ	あきたこまち	ひとめぼれ
出穂期(月日)	8月2日	7月31日	8月5日
成熟期(月日)	9月14日	9月12日	9月20日
稈長(cm)	81	80	82
穂長(cm)	18.0	17.4	18.8
穂数(本/m ²)	425	405	470
倒伏程度(0~5)	0	0.1	1.2
葉いもち	やや強	中	やや弱
穂いもち	強	やや弱	中
耐倒伏性	やや強	やや弱	やや弱
耐冷性(障害型)	強	中	極強
穂発芽性	やや難	難	難
精玄米重(kg/a)	62.2(112)	55.6(100)	62.3(112)
玄米千粒重(g)	23.4	21.8	22.5
玄米品質(1-9)	上中(3.8)	上中(4.3)	上中(5.0)
整粒歩合(%)	81.4	76.4	78.0
白未熟粒割合(%)	7.1	8.6	12.0
玄米蛋白質含有率(%)	6.7	7.0	6.7
白米アミロース含有率(%)	17.8	17.4	17.8
味度値	77.8	77.0	78.4
食味総合評価(-3~+3)	上下(-0.39)	上下(-0.60)	上中(-0.24)

各数値及び特徴は、平成21年から26年にかけて実施した試験の平均値。ただし、白米アミロース含有率は平成21年から23年、食味総合評価は平成21年から25年の試験結果。玄米は1.8mmの篩で調整した。平成21から23年は基肥窒素0.6kg/aで栽培し、平成24年以降は基肥窒素0.5kg/a+追肥窒素0.2kg/aで栽培した。玄米品質は育成地遠観調査の値。整粒歩合と白未熟粒歩合は品質判定器による測定結果。食味は食味用コンヒカリ(基肥窒素0.6kg/a)を基準として評価した。

2 育成経過

- 平成15年 交配 母 新潟71号(耐倒伏性が強く、良質良食味の品種)
父 福島14号(耐冷性が強く、良質良食味の品種)
- 平成19年 「郡系762」の番号を付与し生産力検定予備試験に供試
- 平成21年 「福島30号」の番号を付与し生産力検定本試験に供試
- ~26年 奨励品種決定調査に供試
育成完了



成熟期の姿

玄米の外観

3 命名に至る経緯(農林水産部内等の選考を経て知事が名称決定)

名称を公募したところ「中山間地向けの品種であり、大粒の品種であることと、「天のつづ」と並んでつづシリーズとなるように「山のつづ」と名付けたい。」との提案があった。これを、品種の特性を生かし、県内の冷涼な里山の麓で広く栽培される品種になってほしいと願い「里山のつづ」と補作し、命名した。